

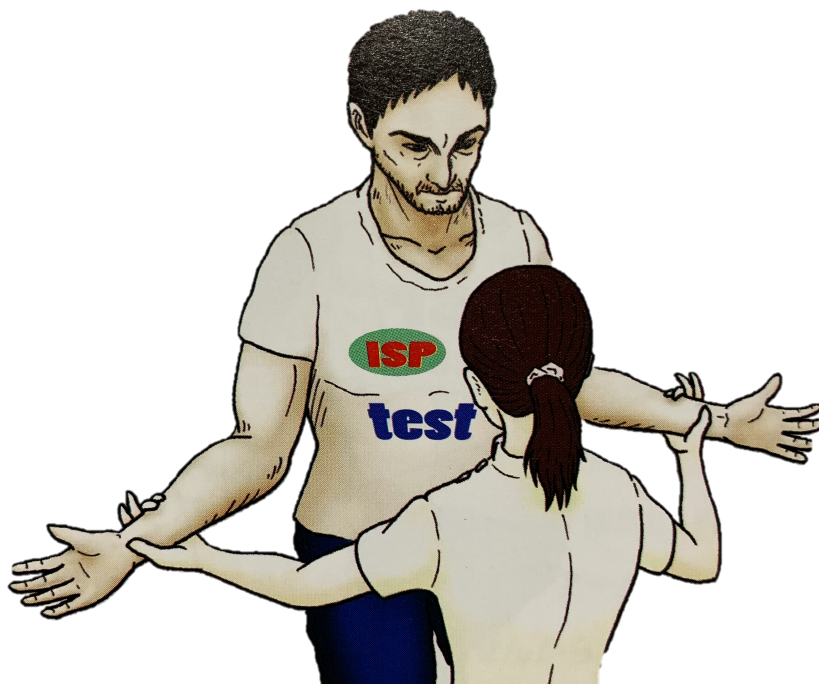
Vol.10.2021

1

North
Handtherapy
Lab

腱板断裂～棘下筋テスト～

棘下筋テスト



測定方法

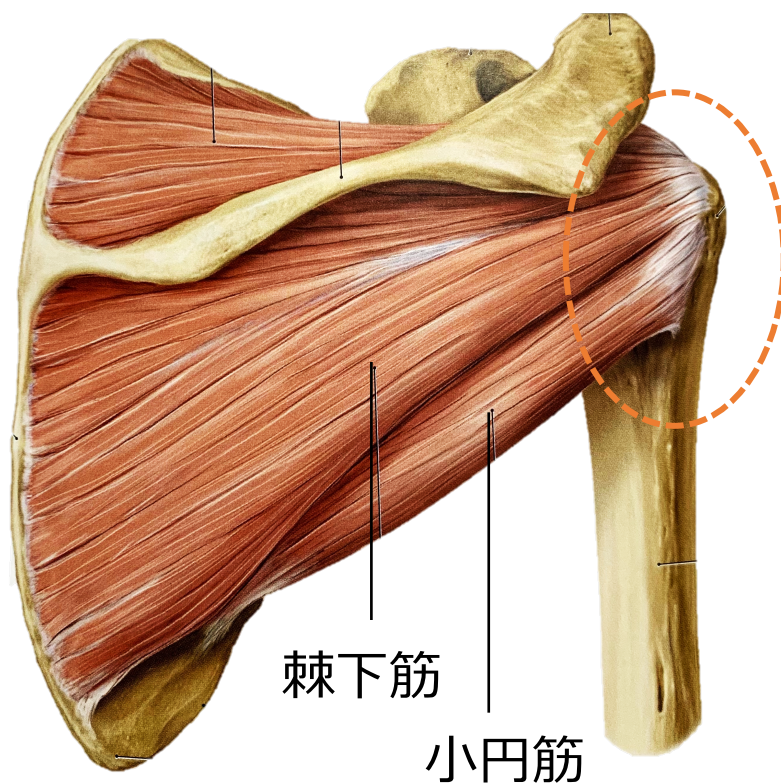
患者様に肩関節下垂位で外旋させ、これに抵抗を与えることで、その出力の違いや疼痛が誘発されるかどうかで評価します。

注意点

左右同時に外旋させ、健側と患側との違いを評価します。

なぜ肩関節下垂位で実施するのでしょうか？

後方腱板の機能解剖



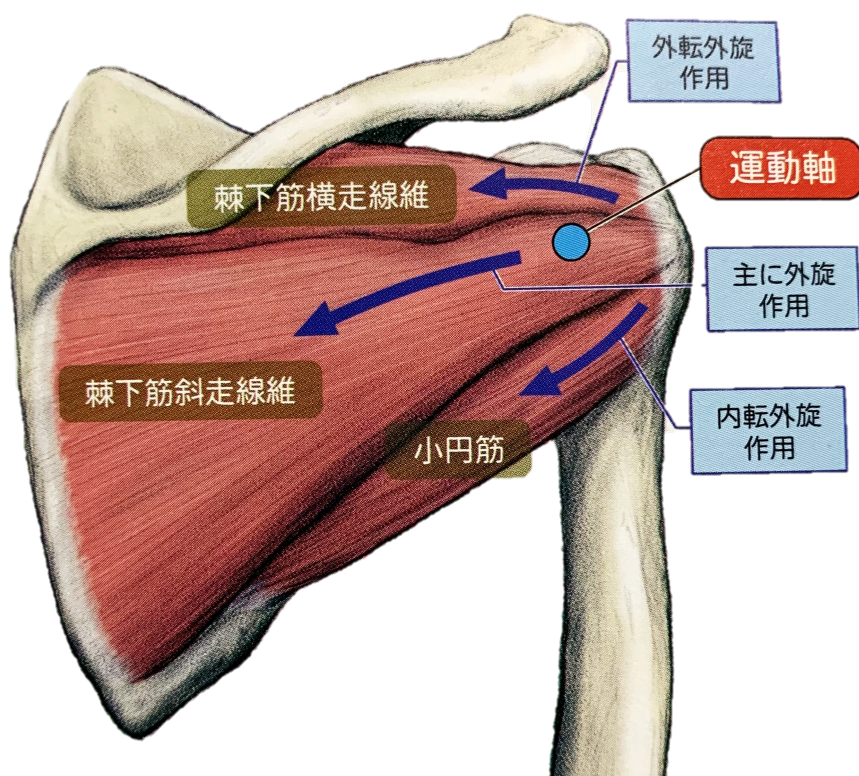
● 今回ターゲットとなる筋は棘下筋・小円筋です！！

● 棘下筋は横走線維と斜走線維に分けられ、小円筋と肩関節の外旋筋です。

● 上から棘下筋横走線維・斜走線維・小円筋の順番で上腕骨に付着します。

※ **オレンジ**の点線で囲んでいる部分です。

後方腱板の機能解剖



上腕骨頭の中心に運動軸があると仮定すると
棘下筋横走線維は肩関節**外転**作用
小円筋には肩関節**内転**作用がある事がわかります。

肩関節外転すると棘下筋横走線維が緩みますので
小円筋を反映した肩関節外旋になります。

肩関節**下垂位**では小円筋が緩みますので
棘下筋横走線維の活動が高まります。

↳ **棘下筋テストは肩関節下垂位で実施します！！**

参考・引用文献

- ・ 運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈
(監修：林 典雄 執筆：林 典雄、岸田 敏嗣)
- ・ プロメテウス解剖学アトラス
(監訳：坂井 建雄、松村 譲児)

最後までご覧いただき、

ありがとうございました

ついに
負けたよ!



保存すると後からでも
閲覧できます

